

第 第 第 3 2 1 号 号 号 (室野) (を代) 七月十四日 }七月四日 から

「から

16分 14 11 時 6 30 分

昭和51年7月10日発行 第 200 号

新渴県松代町公民館

電話松代 7-2301番

印刷・松代印刷所

12 10 時 (蒲生)

"みんなで泳ごう,町民プール開設

3時30分~

5時30分

2時30分

う皆んなで注意しましょのですから、他人に迷惑のですから、他人に迷惑のといいない。 プールの中に物をの プールの廻りで遊

●使用上の注意

① 水泳前に必ず準備運
② 体の具合の悪い人は
② 体の具合の悪い人は
② 体の具合の悪い人は
② 体の具合の悪い人は
② 体の異合の悪い人は
② 体の異合の悪い人は
② 体のがついてくる。
 大人がついてくる。
 大人がついてくる。
 大人がついてくる。 と しょう

ルは

いれるい。

- 皆さんをお待ちしてます- も 開 設 いでください。ます。みんなできまりのプールは次の期間

で下さい。時間を守ってください。また、酒類や危険物は持ち込まない酒類をのんだ人は入場しないこと。ださい。 9 8 月 10

せ します

退 三後 況今た 職追万一九昭に回だ組 手加三千月和つはく合 一当積立金と財政 一当積立金と財政 一二十五六○万五千度の予算 一二十五六○万五千度の予算 一二十五六○万五千月 日本 一〇万五千月 一日から昭和五一年三月三一政状況を公表することになっては組合管内の皆さんに良く < -0 日までのは理解して 状がい

予八 算千 額円 はで 七し 億た 九が 委託の ニそ 九の

中手加 工業地帯防災対策費等の費財政調整積立金及び上越北のは将来の財政運営の健全ました。十円を追加して三月末の予予算額七億七、七三二万八十年を追加して三月末の予予算状況 費用消性 でありた。 きます。

分	予 算 額	支出済額
費	233 f	205∄
費	777525	748806
理 費	772.662	744293
理 曹	662,978	634.610
基金費	57.437	57437
基金費	52.247	52246
対策 費	4863	4.513
費	10260	9.291
費	4.915	0
		!
計	792,933	758302

積(m²)

21

190.88

11384

416.84

416.84

82.88

416.84

189.00

191.25

51.98

2624

2.096.59

建築費

上越市から

17,100

17.100

4.075

17.100

7,980

7.673

4.500

1,450

76,978

無償譲与

出

슾

Ø

X.	^	=		ĒΓ
対産の	大況		(51.
	47			

支

3. 31 現在)

予 算 額 収入済額

737430

731,552 5.878

2.104

7.131

11.580

5.205

763450

0

3. 公

4. 予

戊 出

ď

2 階

75.76

39.66

219.25

219.25

219.25

56.25

51.98

881.40

1 階

115.12

7418

197.59

197.59

8288

197.59

189.00

135.00

26.24

1.215.19

0

738893 蒼

732,754

6.139

2000

10,560

7.095

11.579

4.620

17,000

1.185

792933

金

金

金

λ

債

金

名 造 本 庁 分 室 防 頚 北 本

骨

2 1

物

1. 予算の執行状況(51.3.31現在)

分

1. 分担金及び負担金

1.一般負担金(市町村負担金)

(1) 建

資機材格納庫

計

画

がすづ

Ź

ع

りに

ょ

昨

年

農業を志向

する

会員相互の学習と、

袭

5.

7. 請

8. 組

9. 県

X

で 記 う で 足

を歓迎いたし 農村青少年クライででいる青少年 農村青少年クライででいる 農 機材青少年クランスがさい。 農村市のもありますが、今後の活めていまして、農村青少年クラブ青とを目的として、農村青少年クラブ青とって地域農業の中核者となるべき活よって地域農業の中核者となるべき活

活

動

つりにし

Ź 終了

大月中旬 大月中旬 大月中旬

稚クペ総

ラブ員宅

苗移植

七月三一日でおりて、タバコ視察のより、カバコ視察のかった視察研究

ン一視問

間 り を

八月二

グラウス

ラ

+

ャ

原

青友会

1

クラ

ブ

反 省 会

青友会事務局申込みは農業

7 - 2053 業改良普及所内)

どをや

て

入会を歓

への参加を計画とのほか、日本月下旬 | 画して | 大会、 | 県主催 主催 7 います。国で開催のリーダ の研 \blacksquare 技術交換技術交換

大大

会会等・

面電話債 二

(2)

二、券 三二四割 〇 引 千債

(3)

2 付ポ 消 ン 防 プ ポ自 ン動 プ 車 自 車台 台

3 化学消 防 ポ ン プ 自動車

消防 ポ ン プ 自 二台 動

5 屈折 ご付 消 防ポン 台 プ台

6 救 筋 災 工 は 動 は は 動 作 車車 日 赤 六分七台 二台

指除 令く 重し

8

台台

(五一・) (五一・) = 三 現在)

消防施設整備事業債

郵 一〇一千円

(1)野政省借入額 二五、 六四、

(3)(2)新借市 潟入町 県額村 · 八二二六千円 村職員共済組合連合会 二五、二七五千円

七、七○<</td>七、七○

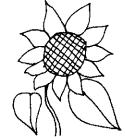
時借入金の現在高

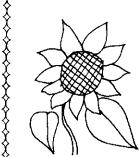
₩.

땓

(五一・三・三一現在

〇千円





有討行

しな

それれ

6)

ま

故 ~

奪四年農どに よう は ま ま り な り 格 てもの水然 おりま の時路環 多期が境た水 くに多に すの六い恵 方 ح + ま県節 々八 が水に命べた(全国) 7 い 海 る や る る る

に年死 こ命に事こわ位は のを入故のれ ような が多く があると しな悲てで、くくないしない。 一類幼 ま 人城児、 できどとを二八の幼児が水八の幼児が水 幼内児 で童 がもの 水本水

い返 たさ よう。いかの ことを

いっど長 も水水す子危 のはにる供な 楽親にはい ししつ幼遊 いいみれ児び ģ うこと て期に の水魚のは か Ū `び注 水泳ながら成 よう ۲ にわ

> れ毎水 年 遊 て 水危 の険 事な 故一 が 面 繰も りあ 返っ さて

注意し Ł ح て で 0 ととに

必幼 ず 保護 者注い 付 き添

つ

※ 所魚児風水 ※ 家 目 サ池いが意 ク p て 覆 おい防 を見り

※ え自 を注意 t安全な場 上意 なえ 遠目 泳に や考

等制 自引のに主卒遊手 币 泳ぬな 視伴には が者つな * 65 65 てか。

しい助 てて方湯 関係者-関係者-関係者-と 者 です打法のは 合等際

中

にの分

つ救か

故を な し ょ ろ

しよう。 児やこどもを交通事故 五件の人身事故が起きています。 ます 最近 運転者と大人が注意 かも被害者は全部こども 町内で は 今年に入って六月までに 交通安全 の 人身事故 の月 で から守り 合っ カジ व を増え て幼 です

言日であ の交通安全宣言 七月十日 Ď, は新潟県の交通安全官 七月三十 日 であ り 日 ます は 松代 o 町

皆ん て事故を起さな なが正し 65 Ü 交通 ル なに合わ ル を守

町 Ш

菜

である五月二十五、 の大きな、 が大いでに、 がいるよれが がいたがれた。 がいたが、 がいが、 がいたが、 がいたが、 がいたが、 がいたが、 がいたが、 がいが、 が が欲り る必的の 要にた をむに 等の小町での開苗 視お出の視花通育 ہے 三日 て す向 いるに 会を大のて産民植間 る。

そか社に長 と達者 だに年殆 工場活 の独活と 、き、 企め人 こ、若き社会 0 ら達て 出荷 て — されのの非

わ本なかはに伸えそ高進でれ試川既め一と八年う °もびてのいむ奪は作西にて万かKg度との 1911年の1911年 り大廃ろかうわ、松と半金五 、切しうら前れ独代と分額五 をて回り土 分額五はにれ し切文のにと そだたか作向て活町ながは四 一万 で一千五の

員はあをれあれ となる利るるる私 しいの用と米物達 てかかしとにに松 もと割 て で つつ代 合 生 しいい町 う知産 ょ て て住 か農いど他て作生 な業のの土い物産 町委で位地らでさ

保 健 衛生シリ ズ (10)

幼児に虫歯が非常に多

そ児 が \equiv 多 の おというは無残念は 才月 0) うととです 検 なことに 診を実施 診をはじ U 大変虫歯大変虫歯

虫歯が一本もない幼児は、七%三才児で八七・八%で、虫歯の羅患率は、二才児 事 が 多 ょ 言 人は つが虫て、歯 O三 宝歯の原因は、い中五人しか、三人の中九人 っお 検 っとした注意で予防できるおりますように、お母さん検診や衛生指導の際いつもの原因は、いろいろありまの原因は、いろいろありまのには、いろいるありまかがませんでした。 で 八%でした。二才児で七二・

母乳で育てるのが少ない

てみますと 検診で気づいた主なものを上 ゖ゙

○離乳完了がおそい○母乳栄養が少ない る のもある) 三年 か か

時食べない 6262 **~**そ 0) ため食事 Ď

な知識が十分でなることは、育児とはかにも種々な ます とは、育児についてかにも種々あります な W よう に思 のが 思われれる、言え

お

待たせ-

しまし

松代に

児担当者の勉強が強く望まれます。を育てるために、もっともっと育精神的にも肉体的にも健康な子 もっともっと育的にも健康な子

学級に 参加 しよう

級五十 すす すすんで参加して下さい。級、健康相談を計画しています。五十一年度に次のような検診、学ー松代町では、母子保健について

●母親学級

П ます。中期、 後期 の三

栄生 養理

○妊娠体操

○分娩、

○家族計画 産褥、 新生児

産後検診

て行ないます。ます。二カ月児の健康を行ない、産後の健康を行ない、産後の健康 康根状 心態を調血圧測 せべ定

孫親学級

育児担当者は、 母親とは限られ

> ま て 心います。して見るない。 0 -) る てもらい、 面どうを見て のが多い は は 大 に 考えていきたい に 考えていきたい に ま本的な 育児 方法 に まったい なってい まかされ まかされ

カ月児健康相

産 ● 後 二 後検診と合せて身体計 、ます。 測 でと健

●育児学級へ康相談を行ないよ (前期

習をしていきます。を行ない合せて離乳に 体計測、 生後四、 い合せて離乳について先天性股関節脱臼の公、五ヵ月児を対象に てのに の検 学診身

●育児学級 (後期

体の発育状況、事故防止、一年を迎えるに当って、特生後八・九カ月児を対象 ●乳児検診→について学習 ついて学習 音します。 事故防止、 精神、 離乳 完身満

●一歳児検診で身体計測と医師の診察があります。 生後六カ月~ 十二カ月までの乳児

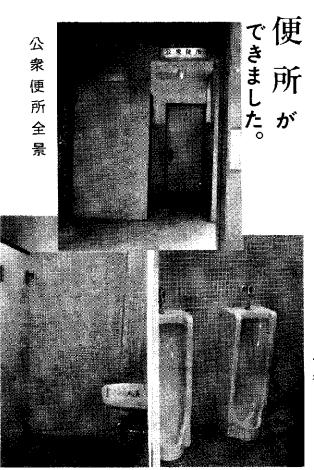
体 ●計 二測 ●二歳児検診計測と医師の診察があります。生後一年~二年までの幼児で身

ます。 身体計測と内科歯科の診 二才六ヵ月~三才まで 家があるの幼児 りで

●三歳児検診

身体計測と内科 ります 三才六カ月~ [才まで 歯 科 Ø 診察があいの幼児で

用



場所は、消防庁舎のとこれものです。

四銀行

の前

旭堂旅

館の

のうしろ) ところ(第

です

との程完成しました。 に設置の声が強かった 婦人会をはじめ各方

置の声が強かった公衆便所が人会をはじめ各方面から松代

水洗式、

タイル張り、

男子用(大

の立派

用下さい。たものです。安心して食糧事務所とは全然別

て別

で気安くご利の個で独立し

女子

用

の

部

えます

≧切りがしてあり、9が、コンクリート1は町商工会と同じ.

トじ

でよう

ったき見

酉

工会や

入

りと区

笠原利枝子

市川

髙橋

官沢

髙橋

室 岡

秋山

桑原

山岸

69p

本 柳

井 上

小 堺

牧田

人口のうごき

柳

小堺イッ子

柳 ハル子

池田田鶴子

中村美笑子

高橋リョ子

本柳喜代子

小堺ョシ子

西潟都伊子

佐藤イツ子

五十嵐スミエ

谷沢コハル

力亦

3 3 /

フミ

繁尾

シツ

稔 子

႕

トシ

重子

スイ

悦子

1 7

京

代

٤IJ 晵

æ 卯 吉

年

水 金

山

老

伏

沢

栴

貫 * 作 中村

田 理 肋

平

明 博

立 存

野 久

野 靖

代 玉

もう地

おの島

田野倉

あさみ平

痡 生 健

揊 鳥 平

池之畑

下 įĹί

彵 灵 辰

숲 沢 政 栄

東 山 益 雄

賢太郎

忠

力

軍

治 山岸

夫 石沢

f'⊨ 髙 橋

£

友

Ϋ́F

一 郎

£ ≝ ₿₿

政

利 堆

清 松

秀

Æί

炭 Ξ

治 柳

丈 fL

栄

政

余

哲 郞

英

静江

チイ

光子

随日マッノ T 13.10.8

市川マッノ S 13. 3.16

山賀千枝子 S 17, 10, 10

万羽いよ子 S 28. 3.14

S 2. 6.10

S 29. 3.22

T 15. 7. 10

5 5. 3.30

春子 S 16. 4.15

シマ S 5. 6. 8

准子 S 13. 12. 11

一惠 S 23. 1.28

悦子 S 9. 8.27

智子 S 16. 8.11

時子 | \$ 20.12.12

S 7. 1. 19

S 3. 3. 4

T 15. 1.26

T 15.1 6. 1

T 14. 4.28

T 13. 3.21

S 5. 5. 12

S 5 7 18

S 13. 4. 9

S 2.10. 8

S 11. 5.21

S 13. 6. 27

S 5. 1. 6

S 23. 7. 1

S 19. 7.30

T 15. 11. 14

S 14. 2.19

S 20. 3.14

T 15. 5. 13

T 15. 3. 16

S 7. 11. 19

S 8. 8. 25

S 2.12. 5

S 4. 7. 20

45年

新

新

新

新

新

新

新

50年

新

新

新

新

50年

新

新

46年

新

新

47年

新

新

新

新

47年

50年

新

45年

新

新

50年

#

新

新

新

新

50年

50年

電話番号

7 - 2 1 2 3

7 - 9 2 1 7

7 - 7 4 2 B

7 - 7 5 6 9

7 - 7359

7 - 7 3 3 9

7 - 9677

7 - 9644

7 - 9 7 2 7

7 - 2625

7 - 8341

7-9498

7-9562

7 - 9606

7 - 9 4 3 3

7 - 9 7 6 6

7 . 9 7 5 1

7 - 7273

7 - 7231

7 - 2 1 5 5

7 - 7158

7 - 7 5 0 2

7 - 8639

7 - 81.88

7 - 9 1 1 3

7 - 8236

7-8257

7-8534

7 - 8 3 1 9

7 - 8 2 7 3

7 - 8672

8 - 2062

8 - 4 7 4 4

8 - 2 0 6 7

8 - 4 2 3 1

8 - 4394

8-4422

8-4363

8-4287

者 る 人

ま ぞと 子守 りす

てのと でい発の三 にま育時ツ 八すに期 七% 。 も ま 大 のの 大子 魂 \$ た 三なも 歯才時の もかって がだといいわれ いはわ将るまれ来位

始全集児お二 見のにもらて 画 ない器 ~~予す百は で で、本年度 する方々から ロ実際に、幼 は、お母さん (孫親学級、 す o

じを はが ま開 七月 `過 す ਣੇ わ対日 さるよう も二才 つが、 が、す で 対象者五 ・ でか十 た め通 児 おに知御 願是を 多の 忙集 、致します。 たい、孫親学にのこととはない、孫親学に た。 しんで んで な たら、 し子存級 者た

子 保

進

落に推進員を委嘱いを対していましたのに、本年度からを期死亡、低体重児を期死亡、低体重児がら遠い部落にだけから遠い部落にだけがら遠い部落にだけがら遠い部落にだけがら遠い部落にだけがら遠い部落にだけがらばい 一 上に御協 はましたが はましたが はましたが いら いたしました。らほとんど全部にが、死産、周にとんど全部になどの十七名の方になどの十七名の方になどのからない。

> どな悩ま届学 りんす を級推 せず、堅く秘密は となったいます。 となったいます。 となったいます。 となったいます。 はず、堅く秘密は となったいる。 はず、堅く秘密は となったいる。 て保す ょ を 事 うすは °健人こにす 婦のとすめ色 へ相ですた々 の談困めりな 連相った、検絡手たり妊診 なとりし娠や

ら外 ど 各安せ皆し 部心ず L のて 推御 進程談 は下 はた 別表いると °れは 0 す切 お か口 n

母 性 一検査に う 61 7

次八は、2、先 要領でなります。 しま が出産 〜分り次第 日席者五三 日倉血検査 す

ま異 せ常 んの のな でい 御人 了化 承は 下通 さ知 いを °Ē

まの すぁ 人 17 は 個 人通 知 を

の保健に 婦い へと で連絡 下 り きいまし 。 た ら

場か



屋 号

政右エ門

义 七

浦

中星敷

さじべい

うばたけ

利兵衛

浦

清 水

倉屋敷

ひがしや

大 西

中屋敷

元 屋 敷

Δ

かいど端

田村屋

吉田屋

蔵

大 家

献

万

田

は 11

田 中

[ii]

樬

٦. 朴

13

水

中

沢 田

#F 兵

か Z,

新 屋

う ŧ.

7月1日現在

世帯数 2,061 (-1)人口男 4, 015 (女 4,061 (-5)8,076 (-8)

死亡 10 出生 転出 18 転入 14 減計 28 増計

佐小柳石相柳鈴柳樋若藤堺徳田沢 木 口井 藤堺徳田沢 木 マ利 助一郎晴ミ トセ光勇

倉 角 右 じ門門 方門

戸 籍 0 窓 か b

八月受付分 (受付順

お けっこん めでとう

松代金左ェ門 犬伏奥村組 片桐山 上

藤田和義:柳 養友: 斉木輝男・ · 新里君子 · 若月恵子 · 若月恵子 高橋美子

生并春代父春男二女 おたんじょう めでとう

松代吉田建設

お

松山泰子父金一長女 植木たかし父孝市 長男 松代おけや 木村あきつ父文夫二女松代下ノ島住宅 羽直衛父盛郎長男 晃父諄一 長男 会沢東坊木 松代宮沢

(死亡) やみ

松代宮沢入住宅

9 ゼ 六 八 八 八 一 一 六 1 一 二 八 七 八 二 七 一 1 才 才 才 才 才 才 才 才 八四七六八八八 十七 室室奈苧松孟松菅田蓬 野野良島代地代刈野平 立八友紋安上左左新半前 仁堂かエエ宅七林前エ

しボ

N

(参加十四

チ

第12回県民スポーツ 終了 日



「健康の増設を代明では、

ことを目的に、より、生活を明朗化す「健康の増進と体力

するの

上をはか

高等学校・

松代中学校

六月二

松代小学一七日松代

館を会場に開催さ

れま

日でした。
大会は熱戦が展開された。
大会は熱戦が展開された。 八に楽しい一いれ、応援団

次のとおりでしたいものです。として振興し、として振興し、日常生活のかてす。 会 日 ス 1一日でなく、パポーツは大

1一ム般

(参加

② 松高卓球部 ② 松高卓球部 ② 松高卓球部 ○ 金加四チーム (参加四チーム) (参加 4 高卓球部 (参加 5 子) (参加 5 子) (参加 7 子)

B

○周年を迎えま会は今年結成二 松代町野球協

健康で楽し 皆し

 Δ

③松代

奈 A 川 チ

() たします。 みなさんのど観戦声援をお願い



終了試合と成績

Д ッ ク

Α

司工務店 ン クラブ

町長杯争奪野球大会 試

合

を

励

十九試合を実施 ½ 1:10

% 0:8

6/21 — 2:10

ます。

は、後来実施して実施いたしていた。

を加二十四チームを三ブロックにが、、各ブロックともにリーグ戦で二十八試合(一チーム七試合)で二十八試合(一チーム七試合)で二十八試合(一チームを三ブロックにが、各ブロックともにりーグ戦が、各ブロックともにいた。

人バレーボール(女子会チーム ③消味年会チーム ③消味 ム防ム 怒 り ② 千 鉄年

(参 加三チ

- 九回国民

松代町では、
との趣旨にもとづいて、
の趣旨にもとづいて、
はが催されています。
にめ、「県民スポーツの日でされ、毎年各地でスポークの日では、日本の成功をながく記する。

松代赤組 ①室野チ Δ ②松代白 組 3

般バレー ボ

て、

今年も



(次頁へ)



し ぶ 句

会

五 月 哈 行

幹段 ぬ々 く田 世帯 葉よ もり ぬ雪 くの し消 え の始 中瀞雨む 舟

0 > てし 夜ば 楽し の茲 春雨 嵐の

戸を立

鳴て

は 雪折 12 0) ま 7 \$ な芽 枯吹静 き 水 風

枝

Ł O中 12 __ 人早 -立ち花 0) 水

朝残 湯よの し光 ブの ナと のし まのまるして暮れに まるして暮れに け り

日

より今日

け 六れ

0 花

ブ雪 ナ折 若れ 葉の 東 枝 天に 紅新 一の流れくる。

山 宿の 湯舟に 落 つる 春 0)

雪吊 り Ó 組もそ のま ۷ 桃 Ø 水

山宿に まず吟行す若 葉時 水

6/4

 $\overline{}$

葉

たちと云う草の芽を皿 1また芽吹く ン の芽

Š

御一 たより ても 五.

歩

心み 静が かへ にる 初如 日を目 拝むて \bigcirc げを Z

り甦

を国先旗 旗 で援掲 りげ 初日 めに と映 すへ 、る吾 日家 のの 朝門 先

みま 残た る五に一つ 六越 干し た り 年毎 1 悔 σ

か孫 むの りあ こみ つ赤 でい す毛 ど糸 すめ 節キ 分ャ のッ 今プ 日を

並入 べり て用 今の 日物 もみ こな た手 つの に居り ぬ場 所 \wedge

てし みん ぬ用 と雪 は降 なる け日 れ暮 ど姉 \mathcal{O} 家 \sim 雷

は遠 げ まよ すり , ・ 除 ※ の 雪 の車 如の く通にる 音 聞 ゅ 吾を

の雪 雪さ にた そ舗 っ道 てへ し出 ばて らみ くぬ 歩 五 く尺 余

友ま にた 町ひ でと ふう と会い ほし ゝた 笑みあり い年 1) 0)

> 寝ば け O頰 12 苗代 寒 の 風

淡花公 明

打枝も芽ぶきて少し悲しけ 紅れ貞

枯 に盛 り 明

き

τ

ま

さ

お

鹿の日 ※ たぶらかすきよい てさみし きか 西ず 月だま

き 日 を 想枚 う妙 四な 月葉 馬書 鹿も の配 日達 3 れ た 若

だ沈れ丁 花ほのか つに か匂う く部 聞 屋 < 12 居 7 雨

な吾とも気づき苦追従がたくみな人 笑と ず知

そ 楢な のと咲くして外落葉の中で ゆか から首をも 花た げ \mathcal{O} っ

も思ふ お稀をす の花の如くにかぎた吾も出れ にし す Þ とば さむず

6161 つつ のの 間間 12 12 かか 春山 はは 夏み ヘど 移り れに り埋り

> 6/23 1:18 ル ۲ В ラ ク シ 3

> > ン

本多隆道峰尾弘(道(西 - 二ラン

В ブ

※1:4 米持義一 (ボームラン が1:4 松代町章 町商 Ł 工 ラ 会青 ズ 年 Α

会 三

。 ラ 商 ンエ

6/17 $\overline{}$ 0:7 6:12 勝ムの大松の儀松の大蓬オ奥の五林代五明高五林平日村田新田回組町回新田回組ジル組 ョ南 青 ズ

| = チー エル スド

6/17 $\overline{}$ 3:10 コ牛

 $\frac{6}{24}$ __ 1:21 商工会青年 ル 13 部 Α

コ ル ド

ン山ホー 勝ム 工 会 • 붕 ラ

ス

% % 6½8 — 13:14 4:6 儀 大 蓬 松 明 林 平 ジ 和 辺 3 1 7 ズェ

C ッ ク

6/13 Α

⁶/₂₀ CIN 9 8

シー ズソ

6<u>/29</u> ホ 14:15 山 ホ 14-13 15-12 14-13 15-14 Δ A ャ号

・原逆正 サヨナ ラ・ 号 三ラ

Щ 交通安全功労者 甲七さん 知事表彰を受 け る

小

からは新潟県交通安全協会評議同松代支部長等を歴任、四十八出しに、東頚城郡安全協会副会者協会発足当初から同役員を振去は昭和三十一年東頚城郡運 議八会 仮 長 り 長

自動車運転免許の更新は 金曜日に変更 7月から県の講師団の都合で、 更新手続きや講習を受ける人は 8月 20日

あります。ける等、交通安全業務の先駆ける等、交通安全業務の先駆で新潟県交通モニターの委嘱を務め、四十五年から四十五

であります。 動参加が今日 関長の感謝な

日の栄誉となった的な協力と献身は私を受ける等、高いても数回に亘れ

8の先駆者で-の委嘱を受-四十八年ま

日的状い はったもの 歌身的な活 交通安

•

• 10月15日

第三金曜日に変ります。

注意して下さい。

7月 16日

17日

未定

交通事故相談は無料です 不幸にして交通事故に合われた

20 ∄

11月

6)

ご使用 用 のあ 印り かま んす でか お申り し預 込金み通 下帳

雷

話

局

しか

b

方で、不明な点や、心配事のある 方は移動交通事故相談所を利用し て下さい。奇数月の第三火曜日に 総合センターで開設されます。 9月21日

11月 16日 です。 尚上越支庁では毎日開設されて いますのでご利用下さい。

松代電報電話

さに

話 局

七 -11100

0 集

り行 四月採用の大学卒男子警察官の採用試験が、

 \bigcirc \bigcirc 採用予定人員

人

す

 \bigcirc 受付期 蕳

第二次試 験験

い預 局

でだ口お

また金

۲,

の窓口に の窓口に がります。 で表いは

てでのめ

四月 __ B 現在

<

ことは安塚警察署、 2

電話局

K

ね

理 教 室 込 受

付

たが 年も調理 二回まではすでに 受付中です。 申込先は 公民 わずにすぐ 三回目以降に 館 教室を開 (総合 申込みく ど希望の方 乜 終了 Ų١ つかい 7 タ たださ 6) て申込み たしまし は ま 明日と す ٥. 第

町公民館

部落・ 電話 氏名 出 [席希望

講師 笹川 佐藤敏子女史 裕子女

② 10 月 ① 8 月 時間 午前 11 13日…自家野菜 日:お盆料 9 30 分 理 1 0 午 後

④12月8日…クリスマス ③11月10日…保存食品の つくり方 ス 0 ケ い利 ろ用 キい のろ

⑤ 12 月 22 日: お正月料 酒 一のさか 理と手軽 ts 1

⑦ 2 月 9 ⑥ 1 月 12 ⑧3月9日… 日: 日…暖か 家族で 手づくり 13 な 0) ~ おや 料 \Diamond 理 すっ UNa2

警 察 官 大 卒 募

!!働きが () のある職場 警察へあなたの情熱を!!

な わ れます。 次によ

管

工

事緒も

し電

て気

を与ってを

てか

事と一 配

△新築、

築し

管もお忘!

ti

13

8

0) て

際配

すぎます

。大工 新築

工さんが来てからではお追に電話局にもご連絡下 改築の相談がまる

もご連絡下 がまとまりま

Z

裕を

の話

線等を動か

~ すとき

電話

大 エ

九月中旬 八月八日 Н

新潟

歳末満の男子 昭和五十二年 受験資格 で二十歳 以上二十八

二年三月三十一日大学(短大を除り 日 、幹部派出所、又は駐在所へお日まで卒業する見込みの者く)を卒業した者又は昭和五十 お

(8)